

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 4月 14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502934		
法人名	有限会社 ひよし		
事業所名	グループホーム ひよし		
所在地	〒721-0972 福山市日吉台3丁目13番7号 (電話) (084) 948-6117		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成25年11月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>グループホームひよしは日吉台という静かな住宅街にあります。開設して10年目になりました。敷地内には草木や花がたくさんあり、季節の移ろいを楽しみながら穏やかに生活しております。理念に掲げているように家庭的な雰囲気を大切に、生き生きと笑顔いっぱいの暮らしができるよう創意工夫を心がけて日常生活のお手伝いをしています。地域の協力体制、ボランティアさんの協力も充実しております。行事の際にもお力添えを頂き、心に残るものとなっております。運営推進会議を通して今後も地域の方に開かれた事業所としての役割やボランティアの受け入れ体制にも力を入れ、地域との関係づくりをより推し進めていきたいと思っております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームひよし（以下、ホーム）は、市内中心部から東部の住宅街の一角に位置しています。ホームは高台に位置しており、ベランダからは市内が一望できます。庭に四季折々の花が植えられ、ホームの畑には季節ごとに野菜の収穫祭を開催するなどの楽しみもあります。ホームでは、地域行事に積極的に参加するなど、地域と協力関係が築けるよう関わりを大切にされています。ボランティアや小・中学生の体験学習の受け入れも積極的に行い、入居者との交流を図っておられます。レクリエーションの充実を図るため、カラオケ大会などを実施し、入居者全員で楽しみながら過ごせるよう工夫されています。家庭的な雰囲気の中で、ゆったりとその人らしい生活ができるよう、職員全体で支援方法を工夫しながら実践に繋げておられます。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型の意義を踏まえた理念とはなっていないが、定期的に振り返り、スタッフ全員で実践している。	ホーム理念に加え、ユニットごとに理念と目標を掲げ、事務所内に掲示されています。会議や研修の場で職員全体で振り返る機会を設け、常に意識して支援できるよう心がけておられます。入居者が自分らしく生活できるような環境づくりに取り組まれています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の集まりやイベント参加の他、運営推進会議の際は折りに触れて事業所の実践を伝えるようにしている。	日常的な散歩や買い物に出かけ、地域住民と交流されています。また、夏祭りや文化祭、コンサート等の地域行事にも積極的に参加されています。ホーム主催の感謝祭には、町内の住民も招待されています。職員が町内の会議に出席し、研修講師として専門性を活かした役割を担っておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	日常的に散歩や買い物に出かけ、あいさつを交わしたり、事業所にキャラバンメイトが認知症サポーター養成講座を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の方の参加を呼び掛けるためにも行事を通して触れ合う事を重視し、意見やアドバイスを頂き、参考にしている。	会議は、2か月に1回開催されています。メンバーは、家族、行政担当者、自治会長、民生委員児童員、地域包括支援センター職員の参加があります。会議では、ホームの状況報告を行い、意見交換されています。会議メンバーからアドバイスを受けることも多く、運営の改善に繋げておられます。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	2か月に一度小地域ネットワークの集まり他事業所さんとの情報交換や行方不明者等発生した場合や緊急時等は連絡簿で迅速な協力体制をとっている。	2か月に1回、地域包括支援センター主催の小地域ネットワーク会議に、ホームからも参加されています。会議では、ケアサービスの取組みやあり方について、情報交換を行い、他事業所との連携も図っておられます。また、日常的に市担当課と連絡を取り合っておられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>禁止の対象となる具体的な行為や「身体拘束」がもたらす3つの弊害の理解を深め、ホームが目指すものや抑制しない介護の取り組みを掲げ、ケアの質の向上につとめている</p>	<p>地域包括支援センター主催の会議で、身体拘束をしないケアについて必要な情報交換を行い、ホーム全体でも周知に取り組まれています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修で学ぶ機会をもつようにし、会議で話し合う場を設け、理解や防止につとめている。スタッフの言動、関わりの頻度が影響し、症状の悪化を招くか学び、虐待の芽を摘み取る“不適切なケア”への振り返りとも言える</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修で学ぶ機会をもつようにしているが、利用されている方がおらず、理解も活用もできていない。学ぶ機会を持ち、活用・援助できるようにしていきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>見学時・入居時に管理者が説明をし、納得や了解を得ている。十分な説明と一度ご本人も交えての見学なども勧めており、不安が少しでも解消できるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時に家族を交えてお茶を飲んだり、話しやすい雰囲気づくりも心がけている。何でも言っただけの関係づくりを日頃から心がけており、会議や朝の申し送りでも共有している。</p>	<p>入居利用料を直接訪問し支払ってもらうなど、家族とのコミュニケーションを図れるよう工夫されています。家族に、入居者の日々の様子を伝え、家族の希望や意見を聞き取り、支援に活かされています。また、広報誌を毎月発行し、入居者のホームでの生活の様子を伝えておられます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	改めて場を持つというよりいつでも聞けるというスタンスでいるよう心がけている。月に一度の定例会ではユニットごとの状態を伝える場も設け、把握や改善に向けて話し合いをしている。	ミーティングで出た意見を精査して、代表者に伝えられています。また、個別にアンケートを実施し、職員一人ひとりが意見や個別目標、自己評価を記載し、運営に反映できるよう取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全体会議を年2回実施しており、認知症の理解を含め、各自が実践者としてステップアップできるようにしている。又研修の参加を惜しまず、知識の共有につなげている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	希望する研修や講演会参加が積極的に行われており、スタッフ間で共有している。又現場で活かせるような環境づくりを援助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修会や小地域ネットワークでは近隣の事業所が集まった際、情報交換ができています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人様にも一度ホームを見学して頂き、実際に雰囲気を感じて頂きながら会話を進め、要望等をひきだしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族から初回面接時に困っている事をお伺いしている。初期の段階では気持ちの変更もある為、リラックスできるような話し方や傾聴しながら会話を進めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人・家族より状況・状態をしっかりお聞きし、必要な支援を分析。在宅サービスの種類を知らない方もいらっしゃる為、内容に合わせて近隣の事業所の紹介も併せて行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>グループホームは一般家庭と同じだという思いでできる事を見極め、共同作業を促すなど暮らしを共に付け合う関係づくりを行っている</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時に本人の状態を詳しくお伝えし、介護記録も見て頂き、情報交換を行っている。家族との絆を深める為にも、文通ノートを利用したり、手紙で思いを伝える援助を行っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご家族の協力もあり、今までのなじみの方の訪問回数も増えている。知人・友人どなたでも訪問しやすいようなホームであるよう話題にも挙げ、次回訪問につなげている</p>	<p>知人の訪問があります。また、入居者宛てに届いた手紙などの返信の代筆を職員が手伝うなど、これまでの関係が途切れないよう支援されています。入居者が希望する場所に、家族の協力を得ながら外出できるよう対応されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性の関係や難聴の方もおり、口調が強くなることもあるが、作業や会話を通して仲良く、穏やかな関係が保てるよう援助している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、家族さんから電話で入居相談者の紹介はある。在宅復帰された方はおらず、施設同志の連携はあり、相談や援助に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人に対する傾聴、発語の困難な方についても生活の把握、非言語コミュニケーションを重視し、把握に努め、ユニット会議や朝の申し送りで情報の共有に努めている。	入居者本位の支援を念頭に、表情を汲み取る姿勢と傾聴に心がけ、意向の把握に努められています。また、介護日誌やアセスメント時に情報交換することで、身体状況や意向を職員全体で共有されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族より情報収集した生活環境や生活歴を参考にしている。かかりつけ医や居宅のケアマネにも情報の提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録にて日々の現状の把握が伝えられ、申し送りやユニット会議にて共有するようにしている。毎日の小さな気付きの感性にもスタッフ間で取り組み、日々の生活につなげている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族・各担当にて現状を踏まえて要望・助言をいただきながらアイデアを出し合い作成している。</p>	<p>入居者1人に対し、担当職員を2人設定し、アセスメントを実施されています。ケース会議で協議を重ね、介護計画を作成されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々、入居者と関わりながらちょっとした言動やスタッフの気付きなど記載する習慣をつけ申し送りや会議などで共有し、サービスの向上につながるよう話会うようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>一日の基本的なスケジュールはあるが、心身の状態に応じ個別的な対応をとるなど臨機応変に対応している</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>比較的歩きやすいスーパーでの買い物や行きつけの本屋での定期購読のための注文など個人個人が暮らしを楽しめるよう援助している</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>月2回の往診にて病状の安定が図れている。往診時は必要に応じて家族への同席もお願いし、つながりを大切にしている。</p>	<p>入居者は、入居時に協力医療機関への受診に切り替えておられます。定期的に協力医療機関による往診を受けられ、薬剤師の訪問による指導もあり、医療機関と職員との連携が密接に行われています。</p>	
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	緊急時の対応、情報の共有、相談において異常の発見・予防に努めるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後に起こりうるダメージ、注意点などを条項間の中で把握している。入院時も定期的にお見舞いに行き、本人家族の意向を聞きながら担当の医師・看護師との連携を密にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合など、「終末期における対応についての同意書」にてグループホームで可能な対応を説明し、本人・家族の希望される対応についても話を伺っている。夜間の往診・訪問看護も受けられる体制になっている。	重度化や終末期に向けた取り組みについて、本人や家族に希望に沿えるよう、主治医の意見や訪問看護を利用しながらできるだけ支援する方針を持たれています。看取り経験は豊富ですが、職員が不安なく支援できるよう、取り組みに向けた研修等を実施されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルや書籍もすぐに見られる場所に配置され、対応方法などはカンファレンスなどで確認しているが、定期的までにはいかないため、実践力にはつながっていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の防災訓練・消防署との視察により、注意点の明確化やノウハウを身につけている。地域の参加も得られており、自治体が開催する訓練にも参加している。	想定される災害は火災と地震です。年2回、消防避難訓練を実施されています。地域住民の参加が得られるよう、声かけやチラシを掲示する等の努力をされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人を尊重し、安心感を与える声かけは行えている。理念を念頭に置き、本人の自尊心を損ねることがないように心がけている。	入居者の安心感に繋がる取り組みとして、職員は傾聴や不安と感じない言葉遣いに心がけておられます。特に、全体で声かけの意識統一を図れるよう支援されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを多くとり、思いや希望が表出し易い環境づくりを心がけている。発語が困難な方については表情より思いを汲み取るよう働きかけスタッフ間で情報を共有している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ひとり一人の意向、生活空間、リズムが守れるよう心がけている。本人の体調やペースを尊重し、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時はもちろん、いろいろな洋服を着ていただいたり、更衣が難しい方には行こうをたずね、決めていただいたものを着て出かけるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みや自分で食べられることを大切にしている。つくる過程においてもできることを把握して上で参加していただき、スタッフも一緒に食事することで会話をしながら楽しい団欒となっている。	食事は、職員の手作りによる物を提供されています。ホームの畑で採れた野菜を使い、季節感を取り入れた食事に心がけておられます。その日その時の入居者の状況を考慮しながら、調理などの手伝いを職員と一緒に行われています。入居者と職員は同じテーブルで、共通の会話を楽しみながら一緒に食事をされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	個別に食事・水分摂取量のチェックを行っている。少ない方に対しては食べ易い形態をその都度工夫し、提供している。嚥下状態の悪い方には刻みやトロミで工夫し、食べられる口を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声かけ・誘導にて促し、スタッフの見守りのなか、洗浄介助や義歯洗浄剤の使用で定期的な清潔の保持を実践している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	立位が可能な方はトイレでの排泄につながらなくても日中はトイレに座るよう誘導している。間隔があいた方などは声かけの配慮を行い、スムーズな排泄につながるよう援助している	一人ひとりの排泄パターンを把握し，声かけによる誘導をされています。ほぼ全員の入居者がトイレでの排泄をされており，廊下に誘導テープを貼り，大きく表示するなど，トイレの場所が一目で分かりやすくするための工夫をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	薬に頼る前に食品での工夫(豆乳)やレクの参加など腸の動きの活発化に向けて普段の生活の中で意識しながら取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	本人が入浴を楽しめるようコミュニケーションをとながら行っている。本人の希望によりシャワー浴を行ったり、体調に合わせて時間の変更を行う配慮を行っている	風呂は個浴です。入居者の状態により，入浴時間や入浴回数を臨機応変に対応されています。入居者に合わせて，ゆっくり入浴できるよう配慮されています。	
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	気持ちよく眠れるよう寒暖の調節、状態により体位変換などを行っている。ベッドに馴染みのない方は布団にて休んでいただくような環境設定にて今までの生活習慣の継続も図っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	居宅療養管理指導も受けており、目的や効果を理解することはもちろん、症状の変化にも専門の方の相談がいつでもできるよう連携の確保ができています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人や家族より生活歴などの情報収集に努め個々の趣味や生きがい昔やっていた事やそれに近い事ができる場面を提供し自信回復へとつなげ張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう援助している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	積極的に外出に誘っている。日常的な買い物・ドライブに誘い、家族と一緒にの外出にも声をかけて協力していただけるよう支援している	職員は入居者に、散歩や買い物、ドライブなどに誘い、できるだけ外出の機会を設けるよう支援されています。歌謡コンサートに出かけることもあります。また、家族の協力を得て外出の機会が増やせるよう努力されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人や家族の希望により、施設で管理しているお小遣いから希望のものがあれば一緒に買いに行き、選んでいただいている。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を通じて自分の思いを自由に書きポストに投函している。希望があれば電話もいつでも自由にできる		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	家庭的な雰囲気を大切にし、混乱を招かないよう、分かり易くポスターを貼ったり、季節ごとに花を飾るなど居心地のよい空間を心がけている	ほとんどの入居者が1日をホールで過ごされています。ホールは陽当たりが良く、明るく温かい雰囲気です。壁面に入居者の作品を掲示したり、フラワーセラピー講師の指導により生けた花をテーブルに飾っておられます。また、ホールの一角には、掘ごたつ式の畳スペースが設置されており、洗濯物をたたんだり、縫い物などをして過ごされています。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	自席でゆっくりくつろいだり、ソファに腰掛けTVを見たり、クッションや背もたれ、足台などそれぞれが思い思いにひと時を過ごしている		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	できるだけ使いなれたも物を持参していたっている。家族の写真や仏壇などなじみのものや大切なものが居室あり、居心地よく過ごせる空間ができている。	居室には、ベッド、整理タンスをレンタルで設置されています。本人の希望や状態に合わせて、セラピーマットを敷き布団で寝る入居者もおられます。仏壇に花を供えたり、好きな本、家族写真など、入居者は馴染みのある物などを持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	何処に何があるか見え易いよう各室ドアには写真や文字やテープをはるなど、混乱しないような配慮をしている。また必要な箇所に滑り止め・手摺り。踏み台を設置することにより安心した生活が送れるよう工夫している		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
			①ほぼ毎日のように

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。</p>	<p>事業所理念の中に地域密着の言葉は無いが、その意義を踏まえたものと共有しており日々のケアに繋げている。</p>		
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	<p>地域の敬老会や夏祭り・町内清掃等にも参加している。施設行事の際にも地域の方々に呼びかけをし、多くの参加が得られている。</p>		
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。</p>	<p>事業所にキャラバンメイトがおり、要請に応じて地域住民に 向け認知症になっても地域で楽しく暮らす街づくりの推進を図っている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議において、取組み状況を公表・報告している。新たな取組みについても相談し、助言を頂き協力も得ている。</p>		
5	4	<p>○市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。</p>	<p>運営推進会議にてサービスの内容、取組みを伝えている。 今後も助言を受けながらサービス向上に活かしたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日中は玄関に施錠することなく解放されている。身体拘束についてのマニュアルも、いつでも閲読出来るよう配置し身体拘束をしないケアが行われている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部研修へ参加し、学んだ事をスタッフ間で共有している。スタッフも介護ストレスが蓄積しないよう話し合う機会を持ち日々のケアにおいてスタッフ同志 注意を払っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護に関する研修を受け常時相談に応じる体制は整っているが現在希望される人はいない。今後も研修等参加し学ぶ機会を大切にしていきたい。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前には必ず見学や体験をしていたり利用者・家族の方が納得されるまで時間をかけて説明を行っている。また重要事項改定の際には、利用者・家族より理解を得られるまで何度も話し合いを行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や、面会時等、随時意見・要望をお聞きするよう努め、運営に反映させている。</p>		
		○運営に関する職員意見の反映			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	提案があれば、日常の会話やミーティング等、いつでも聞く機会が設けられ反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労務士の助言により職員個々が、やりがいを持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	希望する研修や講演会参加が積極的に行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修参加等により同業者とのネットワークを広め他の事業所と情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人さんの思いを十分に聴けるようコミュニケーションを取り安心して生活が送れるよう関係作りに努めている。		
		○初期に築く家族等との信頼関係			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の要望など、しっかりお聞きし、情報交換も行いながらより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族より状況・状態をしっかりお聞きし、必要な支援を分析。施設での生活形態等もお伝えしたうえで入所の適否を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事等すべての日常生活において、共に助け合う関係作りが築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時等に本人さんの状態を詳しくお伝えし、介護記録なども見ていただいた上で、色々と意見交換を行い良い関係が築けるように努めている。また家族の絆を大切にする為、文通ノートを利用したり遠方に住まれている家族とは文通支援も行われている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御家族の協力もあり、関係継続の支援が行われている。また、知人・友人、どなたでも自由に面会が出来る。		
		○利用者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握した上で、合同活動・共同作業の支援を行い、共に支えあいながらの生活環境が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	在宅生活に復帰された方は無く施設同士の連携はある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や職種などから本人の希望・意向を把握し、ミーティングや毎日の申し送りにて情報交換を行い、本人さんの「こだわり」「思い」を大切に検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族から情報収集した生活環境や生活歴を参考にしている。また、かかりつけ医・居宅のケアマネ等にも情報の提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人別のチェック表、介護記録などを参考に申し送りがされ、精神的・身体的状態などの現状把握に努めている。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族からの意向を大切にし、アセスメント・モニタリングに基づきユニット会議(担当者会議)にて検討、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録やチェック表を記入し、日々の申し送り、またユニット会議にて情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームの特性を活かし、職員体制が確保されている為、その時々々の要望に柔軟に応じることが可能。介護タクシーを利用しての外出支援も行われている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域、またボランティアの方々の協力を得ながら楽しみのある暮らしが送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診対応の病院と連携が図られているが、本人の希望・家族の意向も大切に受診同行も支援している。		
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設の看護職員も利用者の状態把握はできているが、かかりつけ医の看護師も気軽に相談に応じて下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的にお見舞いに行き、本人・家族の意向を聞きながら担当の医師、看護師との連携を密にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合など「終末期における対応についての同意書」にて、グループホームで可能な対応を説明し、本人・家族の希望される対応などについても、お話を伺っている。又、夜間の往診・訪問看護も受けられる体制となっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルや書籍も、すぐに見られる場所に置くなどの配慮がされている。また、緊急時対応の勉強会も行っているが定期的とまではいかない為、新人職員には実践力は付いていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設では年2回の防災訓練が行われており地域の方々の参加も得られている。自治体などの訓練にも参加している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
		○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	理念「人間としての尊厳」に基づき、個人を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう心がけ支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを多くとり、思いや希望が表しやすい環境づくりを心がけ、ゆっくりと傾聴することにより自己解決ができるよう働きかけている。また、発語が困難な方においては、表情より思いをくみ取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	共同生活の場としての流れはあるが、本人の希望・ペースを尊重し、その日の日程の変更も可能な限り対応し、予定なしの外出(ドライブ・買い物)や外食等も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	美容院の訪問があり、髪型を変えたり、毛染めをされたり、おしゃれを楽しまれている。また化粧品や衣類・靴なども一緒に買い物に行き本人さんが選ばれたものを購入している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物・調理・食器洗い・片付け等、出来ることは何でも参加していただき、職員も一緒に食事をする中で会話を楽しみながらの楽しいひと時となっている。園庭等での食事も行われ楽しいひと時を過ごされている。		
		○栄養摂取や水分確保の支援	献立表に詳しく材料を記録することによりバランスの良い食事が提供されてい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	る。飲み物は多種類を準備し毎日違う物を提供。また食事・水分の摂取量が個人別にチェックされている為、必要摂取量が確保されている。嚥下状態の悪い方には個々の状態に合わせて刻みやトロミを調節する等の配慮もされている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声かけ・誘導の徹底、能力に応じ舌磨きや洗口液にて口腔内を洗浄介助するなど個別支援を行っている。義歯消毒日をチェック表に記入することにより定期的な義歯の消毒も行われ日々清潔が保たれている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、個人に合わせた声かけ、誘導を行い自立に向けた支援を行っている。また、昼夜でオムツの種類を変える等、考慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事メニューの工夫・家事やレクリエーション参加による適度な運動、水分摂取量のチェック、また嚥下が困難な方には、トロミをつける。ドリンクゼリーを飲んでいただくなどの個々に応じた予防を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	お風呂嫌いな方でも三日に一回は、入浴・洗髪をお願いしているが、出来るだけ本人の希望に添うようにしている。多種の入浴剤を使用する他、男女でシャンプーを変える等 入浴を楽しんでいたように考慮している。		
		○安眠や休息の支援	生活習慣継続のため、内容は各々が使用		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活習慣継続の為、自室はベッド使用か和式生活かを選んでいただいている。また、本人の馴染みの寝具を持参して頂くことにより、お昼寝や夜間も快眠されるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	常時、服薬説明書が備えてあり、いつでも確認可能。服薬チェック・バイタルチェックを記録することにより症状の変化が確認される。また居宅療養管理指導も受けており理解を深めることが出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人や家族より生活歴等の情報収集に努め、個々の趣味や生きがい昔やっていた事や、それに近い事ができる場面を提供し自信回復へとつなげ張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	可能な限り希望に添い散歩やドライブ・買い物に同行している。遠方への外出は家族とされている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小額所持されている方々もいらっしゃるが、本人・家族の希望により、買い物・受診時などは施設で管理しているお小遣いにて対応している。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族より了解が得られている方は、いつでも電話ができる。自室にてゆっくりお話しを楽しまれる方もあり、また、文通をされている方もおられる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な雰囲気を大切にし、混乱を招くような刺激がないよう工夫している。又、清潔が保たれた空間で居心地よく過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	広いリビングには寛げるソファー 冬季には掘りコタツにもなる和室、椅子も多くある為、それぞれが思い思いにひと時を過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個人差はあるが、出来るだけ使い慣れた物を持参して頂いている為、仏壇・鏡台・椅子など馴染みの家具や大切な品物が居室にあり、個性の生かされた居心地良く過ごせる空間が出来ている。時には居室にて一人ゆっくりテレビを楽しまれている方もおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各室ドアに写真や文字・廊下にはテープを目印として貼るなどし、混乱しないよう配慮している。また必要な箇所に滑り止め・手摺り・踏み台等を設置することにより、安心して自立した生活が送れるよう工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
			①ほぼ毎日のように

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひよし

作成日 平成 26 年 4 月 22 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	7	運営に関する職員意見の反映について、いつでも聞けるというスタンスを持っているが1歩踏みこみ一人ひとりの向上心や改善につなげたい。	個人の思いを引き出し、共有・形にすることでホームの更なる発展をめざす。	記入するだけの全員の自己評価から、個人面談につなげ、管理者自ら個々の意見やアドバイスを耳を傾け運営に反映する。	平成26年4月～平成27年3月
2	5	不適切なケアへの振り返りや身体拘束虐待の防止の理解、小さな芽をつみとることに努めていく。	認知症の理解を深め、日々のスタッフの言動や不適切なケアを定期的に振り返る場をもつ。	スタッフ全員が参加でき、なおかつ効果的に周知できるような会議の設定を行い、日々のケアの質の向上に努めていく。	平成26年4月～平成27年3月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。